

競技注意事項

1 競技規則について

2024年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則、並びに本大会申し合わせ事項による。

2 招集について

- ①ゲート3（1500mスタート地点外側）に招集所を設置する。競技者は招集開始時刻までに集合し、競技役員の誘導に従うこと。
- ②フィールド競技は全て現地招集（投てき競技は投てき場）とする。
- ③招集開始及び完了時刻は競技日程に記載する。
- ④招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとして処理する。
※ 第2競技場からスタジアムまでの距離が遠いので、時間に余裕を持って行動すること。
- ⑤招集完了時刻までに最終点呼を受けること。その際アスリートビブス（ナンバーカード）、競技用靴等の点検を受けること。
- ⑥招集は、本人が招集所において受けること。ただし、同一時間に他の種目と兼ねて出場する者は、招集所係及び当該審判主任に申し出て了解を得ること。この場合代理人を認める。
- ⑦リレーに出場する競技者で、同一時間に他の種目と兼ねて出場する者は、招集所係及び当該審判主任に申し出て了解を得ること。

3 アスリートビブス（旧称；ゼッケン、ナンバーカード）について

- ①アスリートビブスは胸と背に1枚ずつ確実につけること。
女子選手のセパレートタイプのユニフォームについては、ナンバーが審判から見えるように4ヶ所で確実に留めること。
ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸または背に1枚つけるだけでよい。
- ②トラック種目では腰ナンバーを右腰後方につけること。腰ナンバーは招集所にて配布する。
競技終了後は、フィニッシュライン前方のゲート2付近の「回収箱」へ各自返却する。
- ③4×400mRにおいて2走および3走の競技者はコーナートップ判定のため、両腰に腰ナンバーをつけること。また4走の競技者は写真判定のため、右腰後方に腰ナンバーをつけること。
- ④ランニングシャツの裾を外に出して出場する場合は、腰ナンバーが見えるよう注意する。

4 競技場で使用する競技用靴について

- ①スパイクピンの長さは、9mm以内とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以内とする。
いずれの場合もスパイクピンの数は、11本以内とする。ピンの形状は全天候舗装の競技場で使用できる物とし、土のグラウンド用のピンを使用することは禁止する。
- ②靴底の厚さは以下のとおりとする。（このルールは2024年10月31日まで適用）

800m未満のトラック種目	20mm以内
800m以上のトラック種目	25mm以内
5000m競歩	40mm以内

三段跳	25mm以内
三段跳以外のフィールド種目	20mm以内

- ③靴底の厚さの検査は必ず実施するものではないが、トラック・フィールド各審判長の判断により、競技終了後に検査を実施する場合がある。
- ④シューズについては、WA（世界陸連）の認証品リストを確認の上、使用すること。

WA（世界陸連 Web サイト；シューズ等の情報）



5 棄権について

出場種目を棄権する場合、本大会においては特に申し出なくとも良い。

招集完了時刻に競技者が競技会場に来ておらず、同一時刻に他種目に出場する旨の連絡もない場合は、棄権したものと見なす。

6 練習について

- ①練習に際しては競技役員の指示に従って安全に練習すること。
- ②練習会場は第2陸上競技場を使用し、別に定める注意事項に従って、練習を行うこと。
なお、第2競技場フィールド芝生内で投てき用具を投げる練習は禁止する。
- ③投てき場隣のクレイグランドを投てき競技出場者用の練習場所として開放する。ジョギングや流し、MB投げなどの練習は、周囲に注意して実施すること。投てき用具（砲丸・円盤・ハンマー・やり等）を用いた練習については禁止する。
- ④投てき用具を投げる練習は、競技開始直前の公式練習のみとする。
- ⑤第2競技場、投てき場、クレイグランドの開放時間・使用場所については、栃木陸協 Web サイト等でも別途提示する。
- ⑥第2競技場のメインスタンド雨天走路は、ジョギングと体操のみ使用を許可する。
第2競技場のバックスタンド外側の雨天走路は、ドリルや流し等の使用を許可する。
雨天走路は一方通行で使用する。
- ⑦第2競技場の利用時間は17時00分頃までとする。これ以降の整理運動等は、カンセキスタジアム内にて行う。
- ⑧8時から競技開始10分前までは、カンセキスタジアムでの練習を許可する。トラックの使用区分は別に定める。跳躍・投てきピット、芝生フィールド内での練習は禁止する。
- ⑨カンセキスタジアムのバックスタンド雨天走路は、8時から使用可とする。衝突事故に注意し、安全に使用すること。
- ⑩カンセキスタジアム1階管理通路および2階の外周での練習は不可とする。
- ⑪総合運動公園内園路はジョギング程度なら可とする。ただし集団での走行、リレーのバトンパスをしながらのジョギング等は禁止とする。選手・関係者及び公園の一般利用者の安全確保のため、ジョギング以外の練習（ハードルやボール等の使用）は禁止する。

7 競技者の入退場について

- ①競技開始後のスタジアム内競技場所・雨天走路への出入りは競技者のみ許可する。付添人や指導者、保護者等の入場は不可とする。
- ②競技に出場する競技者がスタジアム内に入場する際は、3ゲートからの入場とする。
- ③バックスタンド下の雨天走路への入場は、3・4ゲートからとし、メインスタンド1F中央や1・2ゲートからの入退場は禁止とする。入退場時は競技を妨げないように注意すること。
- ④トラック競技に出場する競技者は、フィニッシュ後はバックストレート側を通過してスタート地点に戻る。フィニッシュ後にメインスタンド前を通らないこと。
- ⑤フィールド競技者も他の競技の妨げとならないよう、係員の指示に従うこと。

8 トラック競技の組・走路順、フィールド競技の試技順等について

- ①トラック競技の予選の組・走路順、フィールド競技の試技順は主催者が抽選し、プログラムに示すので、審判員の指示に従うこと。
- ②リレー競走に出場するチームはリレーオーダー用紙を作成し、各ラウンドの第1組目の招集完了時刻の1時間前までにTICに提出する。リレーオーダー用紙はTICで配布する。
また、事前に栃木陸協 Web サイトにもリレーオーダー用紙を掲載する。
- ③リレー競走に出場するチームは、原則として同一ユニフォームで参加しなければならない。ただし、同一のチームと判別可能であれば、形状が異なるユニフォームを着用しても良い。

- ④タイムによる次のラウンドに進む出場者の決定については、次のとおりとする。
 同記録があり、レーン数が不足する時の処置は、写真判定主任が0.001秒単位の実時間を判定して出場者を決定する。それでも決定できない時は抽選とする。(TR 21)

9 跳躍競技（高さ・踏切板の距離）について

(※審判長の判断で、変更することもある。)

種目		練習	試 技
走高跳	男子	1.65 1.90	1.70～1.75～1.80～1.85～1.95～2.00～2.05～2.08・以後3cm
	女子	1.35	
棒高跳	男子	2.70 4.00	2.80～3.00～3.20～3.40～3.60～3.70～3.80・・・

- ①上記以後の高さについては、跳躍審判長の指示による。
 ②第1位決定のバーの上げ下げは走高跳2cm、棒高跳5cmとする。
 ③雨天の際は協議の上、高さを変更することもある。
 ④三段跳における踏切板の距離については、男子は11m・女子は9mとする。

10 競技用器具について

- ①競技に使用する用器具は、検査を受け合格したものについてのみ使用できる。ポールの検査は、招集後現地にて行う。
 ②やりの検査については、競技開始時刻の2時間前～1時間30分前の間に、カンセキスタジアムのゲート4外側の検査場に持参すること。時間外の検査は受け付けない。
 検査で合格したやりについては、主催者にて預かり、主催者のものとして使用する。
 ③リレーや走高跳で使用するマーカー（テープ）は、競技者が各自で準備すること。

11 表彰について

トラック、フィールド、総合得点でそれぞれ優勝した大学を表彰する。

12 競技について

- ①トラック競技の各レース組数、次ラウンド進出者数は競技日程に記載する。
 トラック競技で参加者が少ない場合は予選を実施せず、決勝のみ実施する場合もある。
 フィールド競技（走高跳・棒高跳以外）はトップ8による6回試技を実施する。
 ②トラック競技は不正スタート1回で失格とする。
 ③長距離種目において、著しく遅れた選手に審判長が競技を中止させる場合がある。
 ④リレーチームの競技者が何らかの理由で欠場し、リレーチームの編成ができない場合、当該大学の競技者で他の種目に出場している選手を2名まで、リレーメンバーとして起用することを認める。(TR 24.10)
 ⑤3000m以上の種目の給水については、主催者側が給水所と飲料水を用意する。
 ⑥距離を競うフィールド競技における判定に対する抗議の際、速やかに裁定を下すことが困難な場合は、〔国際〕ルールを適用し、8人を越える競技者でトップ8以降の試技を実施する場合もある。
 ⑦各競技の結果は栃木陸協 Web ページ上の速報サイトに掲載する。

13 その他

- ①T I C (Technical Information Center) をスタジアム1 Fの玄関ホール内に設置する。
T I Cでは、参加団体受付、オーダー用紙の取扱い、競技に関する抗議の受付、プログラム訂正の受付、遺失物保管などの業務を行う。
- ②競技中の傷病などについては、主催者が応急手当をするが、以後の責任は負わない。
- ③各チームのスタジアム内待機場所については、2 F観客席を譲り合って使用すること。またコンコースの内側(トラック側)半分を荷物置き場等として利用することを認める。ただしコンコース内にテントを設営することは認めない。また、競技場外の公園敷地でのテント設営は一切禁止する。なお、雨天練習場・更衣室等を待機場所として占領してはならない。
- ④第2競技場の2 Fコンコースは各団体が譲り合って使用すること。
- ⑤貴重品をはじめ物品の管理は、各自・各チームの責任の下で行う。
- ⑥スタジアム内1 Fのトイレは、100mスタート付近およびフィニッシュライン付近のメインスタンド内トイレを使用すること。メインスタンド1 Fへの出入りについてはスパイクシューズでの出入りは厳禁とする。
- ⑦更衣室については、メインスタンド1 Fフィニッシュライン側を女子用、100mスタート側を男子用とする。またスタジアム2 Fトイレ内の更衣スペース等も利用可とする。
なお第2競技場の更衣室も使用可とする。
- ⑧スタジアムでの横断幕設置は、観客席最前列の手すりにひもで縛って設置すること。ただし、メインスタンドおよび1~4ゲート上の設置は許可しない。また、競技の妨げとなる状態で設置しないこと。横断幕の縦の長さが長く、競技場内の競技者の移動や競技の妨げになる場合には、大会運営本部の判断で撤去する場合がある。なお、のぼり旗は全面禁止。
- ⑨大会が数日にわたって開催される場合、横断幕は大会最終日まで設置したままで良い。
- ⑩ユニフォームやバッグ等の商標に関する規定については、日本陸連の指針に則った対応とする。(下記QRコードから閲覧できる日本陸連公式サイトを参照)

競技会における広告および展示物に関する規程〔国内〕



14 災害時の避難場所

会場責任者の判断により避難の放送が入るので、避難誘導係の指示に従って落ち着いて行動すること。